

1. 我が国ODAの歩み

ODA(Official Development Assistance:政府開発援助)
政府・政府関係機関が、開発途上国の経済・社会の発展や福祉の向上のために行う国際協力のこと。

1954～1960年代：日本のODAのはじまり

- 1954 コロンボ・プランに加盟し、技術協力開始
- 1958 円借款開始(最初の供与先はインド)



1960年代～1980年代：日本のODAの拡充と多様化

- 1965 青年海外協力隊創設
- 1968 無償資金協力(食料援助)開始
- 1974 JICA(国際協力事業団, 現:国際協力機構)設立
- 1978 ODA第1次中期目標(ODAを3年間で倍増)発表
従来のアジア集中からグローバル展開へ
- 1987 国際緊急援助隊の派遣に関する法律が成立
- 1989 米を抜き、トップドナーとなる

1990年代：トップドナーとしての取組

- 1992 ODA大綱策定
- 1993 TICAD(アフリカ開発会議)プロセスの開始
(オーナーシップとパートナーシップ)



2000年代～：21世紀の新たな開発課題への対応

- 2003 ODA大綱改定



2014年：ODA60周年

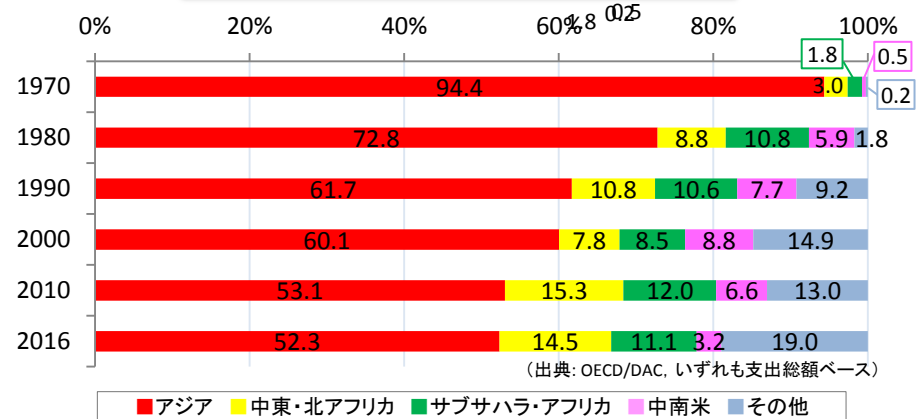
- 2015 開発協力大綱策定
(ODA大綱改定)



データで見るODA

- ◆ **190か国・地域**に対して支援。累計は**支出総額ベースで4,959億ドル**(約61兆円), **支出純額ベースで3,542億ドル**(約45兆円)
(※支出純額=支出総額-有償協力の回収額)
- ◆ **約17万9千名**の専門家派遣, **約5万2千名**のボランティア派遣, **約62万2千名**の研修員受入れ事業を実施

二国間ODA実績の地域別配分推移



ODA受取国トップ3

(支出総額ベース)

	第1位	第2位	第3位
1970	インドネシア	韓国	インド
1980	インドネシア	バングラデシュ	タイ
1990	インドネシア	フィリピン	中国
2000	中国	インドネシア	タイ
2010	インド	インドネシア	ベトナム
2014	ベトナム	インド	インドネシア
2015	インド	ベトナム	フィリピン
2016	インド	ベトナム	イラク

累計(1960-2016年)

(支出総額ベース, 単位10億ドル)

第1位: <u>インドネシア</u> (39.24)	第5位: <u>ベトナム</u> (20.78)
第2位: <u>中国</u> (32.49)	第6位: <u>タイ</u> (18.44)
第3位: <u>インド</u> (29.41)	第7位: <u>バングラデシュ</u> (12.01)
第4位: <u>フィリピン</u> (22.53)	第8位: <u>イラク</u> (11.08)

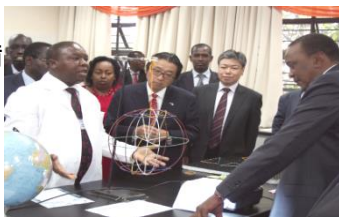
出典: OECD/DAC

2. 我が国ODAの成果

日本のODAの特色

自助努力の後押し

- 人づくり、法制度整備
- 相手国の意思・自主性を重視した対話・協働



(写真提供: JICA)

ケニアで始まり、アフリカ全体に広がった
理数科教育強化計画(SMASE)

持続的な経済成長

- 投資環境整備(インフラ, 産業人材, 制度)
- 雇用拡大, 貧困削減



(写真提供: ESCO社 (Eastern Sea Leam Chabang Terminal Co., Ltd.))

タイの東部臨海地域は、一大工業団地となり、
タイ経済を牽引

人間の安全保障

- 一人ひとりの保護と能力強化
- 脆弱な立場の人々に焦点



(写真提供: 其田 益成/JICA)

ザンビアではKOSHUと呼ばれるトイレとシャ
ワーの設置によりコレラ感染者数が激減



ODAがなし得たこと

途上国の成長・貧困削減
国際社会の平和, 安定, 繁栄に大きな貢献



世界に愛され、信頼される国、日本

東日本大震災後、
多くの途上国を含む
世界の254の国・地
域・国際機関から
お見舞いがあった。

「中央アジア4か国における
対日世論調査」2015

- 日本との関係が「友好関係にある」または「どちらかという
と友好関係にある」と89%
が回答。

「躍動する大陸」アフリカ

●日本企業にとってのビジネスチャンス

(豊富な天然資源、拡大する市場を有するアフリカ)

●多くの国際的課題への対処

(平和と安定を脅かす紛争・政治的混乱やテロ・過激主義、深刻な貧困・開発問題)

「ASEAN(東南アジア諸国連合)
諸国の日本への厚い信頼」
(ASEAN10か国での世論調査, 2017)

- 「日本との関係は友好的」と89%が
回答(うち、インドネシア、ミャンマー、
フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム
では90%以上がその旨回答)。

- ASEANにおける日本の貢献について、
日本政府の開発協力が自国の
開発に「とても役立っている」「どちらか
というと役立っている」と87%が回答。

アジアの安定的成長



●巨大市場としてのASEAN

(総GDPで2.8兆ドルを超える巨大市場に成長)

- 国際社会全体の繁栄を支える重要な交通路
(日本が輸入する原油の8割以上がマラッカ・シンガ
ポール海峡を通過)

TICAD(アフリカ開発会議)は、1993年以降、
日本政府が主導して定期的に開催。

「アフリカが世界から忘れられた時、
日本が世界の関心を喚起してくれた」

TICAD VI (第6回アフリカ開発会議)は、

2016年8月にケニアで初のアフリカ開催となり、
35名の首脳を含むアフリカ53か国が参加。



平和で安全な国際社会

日本の経済活動の基盤